御岳百景

第11号 産安社祭

認定

どこからともなくやわらかなやさしい風が吹き、桜の花びらを運んでくると御岳山はすっかり春だ。
今日のお話は、桜咲く4月の春のお祭り「産安社祭」についてだ。早朝、祭礼の準備を神職が行っていると、山の人が少しづつ集まり始める。それこそ御岳山の人にとって、神社のお祭りは大切な神事と同時にとても身近な集まりごとで、もちろん一般の方も参列できる。

産安社は、子授け、安産と長寿の神として厚い信仰を集める三女神が祭られ、多くの方が参拝に来るお社だ。厳かな祭礼が滞りなく終わると、直会（なおらい）が始まる。この直会が何ともユニークだ。お社の近くでは、敷物がしかれてちょっとした宴会並みの会場が現れる。そこでは、お神酒を始め、皆で持ち寄ったサンドイッチやらおにぎりやら、数々のつまみも出揃う。御神徳（ごしんとく）を頂きながら、お祭りでの緊張を和らげるため直会が始まるのだ。山の人はもちろん、たまたま山歩きに来た人も「寄っていきなよ」「お祭りだから飲んできな」と声がかかる。桜の花を愛でながら、春の息吹を感じ、みんなで食べたり、飲んだりにぎやかに。

祭礼日は毎年まちまち、桜の咲くころ。お祭りに参列した皆が関わりながら、このお祭りが執り行われる。御岳ならではの、このお祭りを御岳百景に認定する。

（解説員　馬場）

前号と見た目はほとんど変わっていないがはたして変化はあったのか…？

茅葺き屋根の馬場家

ムササビくんのその後

前号の続きで、今回は、巣箱設置後にムササビくんがどうなったか？を馬場家の女将さんに聞いてきました！

これは、初秋の夜の出来事。1階の寝室で寝ていると、上の部屋から「カツカツ」と物音が聞こえてきたそうです。その音は、鋭い爪が床に当たるような、どこか聞き覚えのある音だったそうです。女将さんの凄いところは、長年、屋根裏に住んでいたムササビの物音を聞き慣れていたせいか、すぐに「ムササビだわ」と思ったそうです。女将さんは続けました。「ムササビって、顔は可愛いけど、爪が鋭くて、襲ってきそうだし、怖いじゃない…」結局、怖くて姿を見に行くことができず、翌日、物音がしなくなったのを見計らい2階へ行くと“もぬけの殻”だったそうです。出入口がないはずなのに、どうやって入ってきたのか？疑問に思いふと天井をみたら、天井裏を点検するための扉が空いたままになっていたそうです。実は、この天井への扉を開けっ放しにしていたのは、息子さんだったそうで、息子さん曰く「こっぴどく怒られたよ」とのこと。そして、屋根裏に住むムササビくんは、現在も棲み続けているのだとか。

馬場家の屋根と共に、そこで暮らすムササビくんの今後も追っていきたいと思います。

（解説員　林）

雪も降ったよー！

御岳ビジターセンター
〒198-0175　東京都青梅市御岳山38-5
開館（9:00～16:30）　休館（月曜日　※祝日の場合は翌日）
TEL 0428-78-9363　FAX　0428-78-9445
HP　https://www.ces-net.jp/mitakevc/
指定管理者：株式会社 自然教育研究センター（CES）

2019年3月　第11号

御岳ビジターセンターが照らす……

木もれび

神苑の森の新緑

野外卓の隙間から出てきたモミの実生

標

「春」を感じる指標は人それぞれ
植物も動物も鳥も虫も
みんな春に向けて動き始める
あなたが春を感じるのはどんな時ですか？

ミソサザイのさえずり

ミツバツツジの回廊

陽だまりの
ヒオドシチョウ

そっと花ひらく
チョウジザクラ

春がくーるー♪春がくーるー♪どーこーにーくるー♪御岳山の春特集

スーツの人どこいくの？

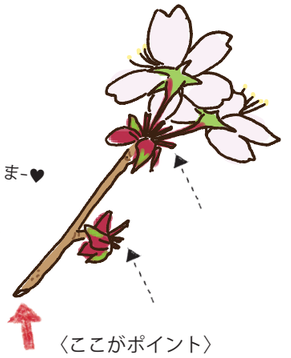
ここは、国立公園。だけれど、ただ自然豊かなだけでは無いのです。春の風に誘われて太鼓の音やにぎやかな声が聞こえてくる・・・そして、なんと！山にスーツの人がやって来る。10人、20人、30人とぞろぞろやってくる。向かう先は、御師の家。そう！御岳山の春は、参拝シーズン。講と呼ばれるグループが春参拝に登ってくるのです。小さい頃から、見ているこの景色が、私の春を感じる瞬間です。

＃講社さん
＃スーツの行列
＃お札をもらいにくる

御岳山に暮らす
解説員　ばばちゃん

ムササビ

御岳山のアイドル、ムササビ。
様々な植物が芽吹くこの季節、御岳山ではムササビの「贅沢食い」の食痕をよく見かけます。ムササビは枝を両手で繰り寄せ、かみ切ってから、栄養たっぷりのサクラ等の花芽や新芽だけを食べ、残ったものはそのまま地面へ落とします。
そんな「贅沢食い」した食痕が落ちているのを見ると、ムササビの食卓が潤い、春が近づいているのを感じるのです。



＃１年中活動している
＃花より団子？
＃夜行性

解説員　ごっちゃん

アブラチャン

＃３月中旬～４月上旬見頃
＃雄と雌の株が違うよ
＃黄色がまぶしい

山の冬は長くて厳しいものです。
一日中氷点下の真冬日もあり、ビジターセンターの前の水道からはつららが垂れ、積もった雪は日陰では溶けずにずっと残っています。
そんな厳しい冬を越え、アブラチャンが咲き始めると、寒さの中でも春が近づいていることを感じさせてくれます。
私にとっては春を知らせてくれる花です。

解説員　つっぴー

夜明けの大コーラス

4時21分　まだ夜が明ける前
「ポポッ　ポポッ　ポポッ…」
ツツドリが軽快なリズムで鳴き始めました。
それに続くように
「チッチッチッ…　ピッチョチョチョチョ」
コルリが元気よく鳴いています。
メジロ、オオルリ、クロツグミ、キビタキも次々と鳴き始めました。
ハイライトは4時40分台の大コーラス
10分間でじつに17種類の大合唱
思わず胸が熱くなります。
4月末、海外から渡ってきたばかりの夏鳥は、日中はまだ囀る頻度が少ないのですが。早朝の大コーラス、様々な夏鳥の囀りを耳にしたとき「おっ御岳山にやってきたんだね」と、春の訪れを感じます。

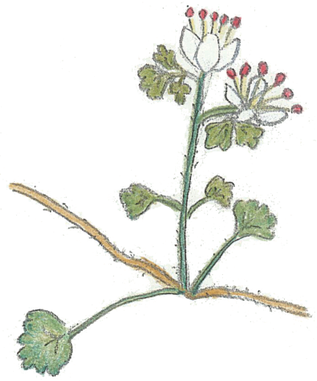
＃夏鳥の恋の季節
＃オスがさえずる
＃宿坊に泊まるとベスト！

解説員　だいちゃん

ハナネコノメ

冬の寒さが緩む3月上旬　そこからゆっくりと春へと移ろう「どんなときに春を感じる？」解説員が御岳山で出会えるとっておきの春を紹介します♪

4月上旬、純白の萼片（がくへん）と雄しべのてっぺんに真っ赤な帽子をかぶった春の妖精は、沢筋の岩陰に舞い降ります。
そして、春の始まりを告げるのです。
ひとつひとつの声は小さいけれど、
みんなで力を合わせて春の訪れを知らせる姿は愛らしく、御岳山はまだまだ寒い時期ですが足を運びたくなります。

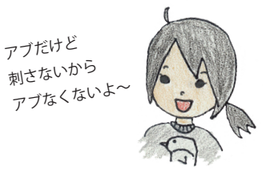


＃４月上旬頃見頃
＃清流の妖精
＃ロックガーデン

解説員　しま

妖精ビロウドツリアブ

春のその短い間にしか出会えない生きものを総じて春の妖精と呼ぶことがあります。
私にとっての春の妖精、それは「ビロウドツリアブ」という小さな小さなアブです。
愛らしいもこもことしたボディ！
黒目がちな大きな瞳！
花から花へと移ろう無邪気なその姿はまさに春に現れる妖精でしょう。
ぽかぽか陽気の日、陽だまりを探すときっと出会えるビロウドツリアブ。
以後お見知りおきを！



＃３月下旬頃から活動
＃春しか出会えないアブ
＃花の蜜が大好物

解説員　いぶぶ

春の感じ方は千差万別…みなさんの感じる春は？